



葛岡 成樹



©AIAA/USU

## 目次

概要 .....	1
感想 .....	2
主なプレゼンテーション・展示 .....	2
(1) キーノートスピーチ .....	2
(2) ビジネス・フィナンシャルパネル .....	2
(3) BIG DATA .....	2
(4) 地上局・衛星運用 .....	2
(5) 打上げ .....	2
ちょっと一言 .....	3

## 概要

2017年8月5日から10日まで、第31回 SmallSat Conference が米国ユタ州ローガンのユタ州立大学で開催された。主催は米国航空宇宙学会(The American Institute of Aeronautics and Astronautics: AIAA)とユタ州立大学(USU)であり、今年のテーマは BIG DATA であった。参加者は昨年よりさらに増え、発表によると2,500人程度とのこと。また商業展示も189社と昨年よりも大幅に増えて展示場所も従来のビルだけではならず、もう一つ

体育館のような大きな建物に第二展示会場を設けるほど盛況であった。



日本からは経産省主催の Japan ブースに17社が展示したほか、個別に5社が展示出展し、関連者を含め100人近くが参加した。

## 感想

このコンファレンスは SmallSat の製造メーカーを中心としたものである。Pumpkin, GomSpace, Tyvak などの小型衛星システムプライムメーカーは、それぞれが標準モデルを設定して標準化を進めている。また展示・技術発表では衛星システムだけではなくサブシステム・コンポーネントなどが他コンファレンスに比べて多く、サブシステム・コンポーネントの技術的な現状と将来動向を知る良い機会となっている。ただし小型衛星システム製造メーカーの Make/Buy、さらにはサプライチェーンがまだはつきりしておらず、現在の小型衛星製造ビジネスブームの裾野がどの程度広がるかははつきりしない。

今年はコンファレンスのテーマが BIG DATA であり、SmallSat のデータ利用まで講演・展示の範囲を広げたが、利用といってもあくまでもシーズ側の発表が中心であり、ニーズ側の講演・展示はアメリカ国家地球空間情報局(NGA)が国家安全保障ユーザとして出席しているだけであった。また衛星オペレーターも Planet の講演以外に講演・展示しておらず、衛星製造メーカー中心のコンファレンスであることを印象付けた。

パネルディスカッション・講演ではビジネスの話もあったが、それぞれのビジネスのターゲットサイズについて整理ができておらず、オペレーター、システムメーカー、サブシステム・コンポーネントメーカー全体をまとめて話す乱暴な議論となっていた。例えばビジネス的には 100kg~200kg クラス衛星が中心となるだろうが、展示では CubeSat システム・コンポーネントが中心であり、まだまだビジネスの話と技術の話とがリンクしていない印象を受けた。

## 主なプレゼンテーション・展示

### (1) キーノートスピーチ

<以下省略>

### (2) ビジネス・フィナンシャルパネル

<以下省略>

### (3) BIG DATA

<以下省略>

### (4) 地上局・衛星運用

<以下省略>

### (5) 打上げ

<以下省略>

## ちょっと一言

コンファレンスの報告を多くの人に送ってきたが、こ



のコーナーでの料理のコメントを楽しみにしているという人が結構いた。しかし今回 Logan, Utah で料理を期待されても困る。毎日ホテルそばのデリの店で総菜を買ってホテルで食べるだけ。ただ一つの楽しみはコンファレンスで提供される昼食であろうか。屋外の大型テントに並ぶと、目の前でローストビーフやローストターキーを切り分けてくれる。もう一切れ、との注文も可能。スコールさえなければ夏の強い日が射す芝生を見ながらの快適な食事である。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com>

葛岡 成樹

<http://sat-biznet.com/contact-us/>



ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹

